

氏名	永原靖浩
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3740号
学位授与の日付	平成14年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Outcome of patients with inconsistent results from ^{13}C -urea breath test and bacterial culture at the time of assessment of <i>Helicobacter pylori</i> eradication therapy in Japan (日本での <i>Helicobacter pylori</i> 除菌療法における除菌判定時の ^{13}C -尿素呼気試験と培養検査の解離例の検討)
論文審査委員	教授 小出典男 教授 田中紀章 教授 公文裕巳

学位論文内容の要旨

H. pylori の除菌判定において、 ^{13}C -尿素呼気試験 (UBT) と培養検査など他の検査法との解離例が存在する。*H. pylori* 陽性の消化性潰瘍症例で除菌判定時、培養検査と UBT 解離例の経過観察を行い、UBT 解離結果の解釈、また至適 UBT 値について検討した。UBT のカットオフ値を 2.5% とした場合、初回判定時の培養と UBT の結果が解離していた例は、10.6% にみられた。そのうち 93.0% は培養陰性、UBT 陽性の解離だった。経過観察にて、その多くは両検査とも陰性になった。除菌判定における UBT のカットオフ値の再解析を行ったところ、至適カットオフ値は 3.5% であった。以上から、*H. pylori* の除菌療法判定において、UBT と培養検査との解離例が存在し、その経過観察における転帰は様々であることが明らかとなった。したがって、除菌療法の効果判定には、除菌判定後の経過観察が重要であると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は *H. pylori* の除菌判定において、複数の除菌判定検査法での判定乖離例を対象にして、除菌後の経過観察から検査法の良否について研究したものである。また除菌後の各検査法のカットオフ値の再評価も行っている。従来ほとんど行われていなかった除菌判定検査法の意義について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。